

八代集抄

板橋志二二

十一

特別
イ 4
3163
104 (1)



かゝうく 幸乃字
やまぐさくま
りふ

あつち乃さやの中山
佐世中山を江へ中
うといん枕詞中く
にとらあやなまといふ
詞は如くつ所をねえ
よりあやなまはひ
忍てのらばむのみ
とあやなく候ふに

後撰和歌集卷第九

五哥一

かゝるあひまわてはくもふ
はびこちあはてふあひこ

源宗干朝臣

あつすら乃さやの中山あぐり
あひるくのちうわひーがとる
あひーちるんふ物所へはる
とん乃さうく^{あひ}はなれずうわ
あしきるるあぐ

ことさへも田の
 縁をさへ
 秋乃田のいねを
 痛を往とよまうて
 いねをさへ
 るとさへ
 も
 人さへ
 ちとさへ
 てわれは
 と我も

秋乃田のいねを
 おもい
 人さへ
 われ
 目比
 集
 とい

とは
 秋乃田のいねを
 痛を往とよまうて
 いねをさへ
 るとさへ
 も
 人さへ
 ちとさへ
 てわれは
 と我も

秋乃田のいねを
 おもい
 人さへ
 われ
 目比
 集
 とい

[illegible]

うにあるけをえぬぞわひま
わらへくほいぢふ人々をわらわに
せむいゝちもわひあつかり
づゝもわらわの^ちよはもんや
こゆあるはるりねもいづていま
我をきこころありてなまじ
其乃ともなはいつたり
人にさそとちりなりきひの
とげぬりきよはいろとおどろ
びすいをきく我下ひいの今まよ
とげぬいとれこむねありなり

[illegible]

へはつりたる夢
 きたふにぬくまはるかに
 るるあゝ〜年乃ぬん
 あにやうにさうしてわかれい
 何んぞ〜か〜ふりあふ
 はつり〜桂乃々
 子子内親と
 子子内親と
 あれとあふ〜ひん
 何ひさるる人乃〜せう
 うとあふわかれい〜り

あめめのと
陽成院の乳母

うい

あらとるちゆし山乃ぬし

あさむらふまやこみ

あ

平定文
たき集作
ねんおた男

あさふにふくそてあつ

あつと

よかん

いふいのちをほすらん

はるかさをくらぬらん

うー

又おとし
いとの4
はのふもあひまねもきりなり
いづれいづれいづれとすん
かー
きやせとあそびかれははる乃
おもひをいづれにあらわしめ
おとし
ゆめよいたるものなりけり
うらみのうらむものをけり
えうちすてきなり

[illegible]

いふあふふ
 えとひ一月を
 姨妹山信はさるの程
 ぬえとひ一人なり
 七月月をれに恨む心
 と持乃持のなふあり
 月日とひさうか
 八月月日をさして
 ゆくまにねをさる
 くるよ我いふま
 ねもさるねがう
 九月月日をさして
 居せとひさう
 るのねさるねがう
 十月月日をさして

えとひ一月日をさして持の
 山信はさるのあうあう
 か
 月日をさうか
 かすまさるねわが
 女はさる
 まひわさる
 うまはさる
 てあう
 くれえ

いふあふふ
 えとひ一月を
 姨妹山信はさるの程
 ぬえとひ一人なり
 七月月をれに恨む心
 と持乃持のなふあり
 月日とひさうか
 八月月日をさして
 ゆくまにねをさる
 くるよ我いふま
 ねもさるねがう
 九月月日をさして
 居せとひさう
 るのねさるねがう
 十月月日をさして

いふあふふ
 えとひ一月日をさして持の
 山信はさるのあうあう
 か
 月日をさうか
 かすまさるねわが
 女はさる
 まひわさる
 うまはさる
 てあう
 くれえ

号本院太医時平
 贈太政大臣 贈正位昭宣公男
 延喜九年四月廿日薨

のやち子知よよそし

○

人といふやうに

付之書之

めあやうと云ふをいぬ
ていさかゆりて
むしむるものゝまゝ
女を鏡より下ある
うさやす鏡とハ
白銅鏡とつけり
奥義云人のうらと女
のとり人うらまされ
てよめり
いせ山ふふ乃きてま
盤瀬山太也とあはれ
えぬるを捨てしむ
てあはれ人のえと
れりふい啼つて
しををいぬれとて
うけけよまふとて

いさかゆりて
まのひさる人をはり
いせ山ふふ乃きてま
人りえぬるをいぬれ
人をあひまりてのち
うさやす鏡とハ
白銅鏡とつけり
奥義云人のうらと女
のとり人うらまされ
てよめり
いせ山ふふ乃きてま
盤瀬山太也とあはれ
えぬるを捨てしむ
てあはれ人のえと
れりふい啼つて
しををいぬれとて
うけけよまふとて

いさかゆりて
めあやうと云ふをいぬ
ていさかゆりて
むしむるものゝまゝ
女を鏡より下ある
うさやす鏡とハ
白銅鏡とつけり
奥義云人のうらと女
のとり人うらまされ
てよめり
いせ山ふふ乃きてま
盤瀬山太也とあはれ
えぬるを捨てしむ
てあはれ人のえと
れりふい啼つて
しををいぬれとて
うけけよまふとて

あやうと云ふをいぬ
めあやうと云ふをいぬ
ていさかゆりて
むしむるものゝまゝ
女を鏡より下ある
うさやす鏡とハ
白銅鏡とつけり
奥義云人のうらと女
のとり人うらまされ
てよめり
いせ山ふふ乃きてま
盤瀬山太也とあはれ
えぬるを捨てしむ
てあはれ人のえと
れりふい啼つて
しををいぬれとて
うけけよまふとて

いさかゆりて
めあやうと云ふをいぬ
ていさかゆりて
むしむるものゝまゝ
女を鏡より下ある
うさやす鏡とハ
白銅鏡とつけり
奥義云人のうらと女
のとり人うらまされ
てよめり
いせ山ふふ乃きてま
盤瀬山太也とあはれ
えぬるを捨てしむ
てあはれ人のえと
れりふい啼つて
しををいぬれとて
うけけよまふとて

世の中ふたつあるなり
世間よく悪悪の信を
つとめくちまへは人ぬ
てひてまぬ信と故と
まをのこつひりすも
軍方根を素ふり
きくよにわわあうつ

巽九十二

へうへうあゝぬわれ乃ち乃ち
 ちをこころうぬぬぬぬ
 へ
 よううううあゝいふふふふ
 ああをいふいふいふ
 はははははははははは
 いえううあゝいふふふふ
 いふいふいふいふいふいふ
 へ

うらなひくも君をたのし
 身とわけく何もおくく可い
 ひともくといひくるものを
 手あはく人をひくとおふ
 われいあくつりくあに
 今つうく
 原等朝臣 中納言希男
冬藏亮安
 何さちふりきれくあれと
 あやうくあふひめくひさ
 兼盛 イ兼寛王
 あやまね新乃くあふくあに

イ兼寛王

いふまじきものなるにあらざる
 ともかくも^{未だ付かず}いふまじきものなる人々
 こといふれいよふひとらす
 にせり海よりいふも何れもいふ縄の
 あふまじきものなるにあらざる
 人々いふにあらざる
 いふまじきものなるにあらざる
 あふまじきものなるにあらざる
 本紀云々尋拵縄をいふに百八十結なりて
 海の色にあらざるにあらざるにあらざる

モムスヒエリヤムセ

[illegible][illegible]

あゝいりんもいふわかれに
山崎もいふは極戸もいふはわかれ
いふやうなまじりといふやう
いふやうな女房といふやうな
いふやうなあぐさねといふやうな
いふやうなくちかたといふやうな
いふやうなはらうといふやうな
いふやうなわかれといふやうな
いふやうなわかれといふやうな
いふやうなわかれといふやうな

はつちのちあふこころはうら
つとあまひをこゝろにせよ
女うづはうりて
人たれどなふてあらわれ
あるこそあふにあらくこゝろ
あふさうはうきせられんか
のちもあふさうきせられん
あふさうきせられん
あふさうきせられん

中務

しりあててあやふ
人乃は我は海をい
つひもさあてて日
をせしむわらふや
さあしむはにやあ
わらふ人なうさ
助さあて
わいさあてあやふ
あは乃は海をい
も我は海をい
さあてあやふ
しりあててあやふ
わらふ人なうさ
助さあて
わいさあてあやふ
あは乃は海をい
も我は海をい
さあてあやふ
しりあててあやふ

しりあててあやふ
あは乃は海をい
つひもさあてて日
をせしむわらふや
さあしむはにやあ
わらふ人なうさ
助さあて
わいさあてあやふ
あは乃は海をい
も我は海をい
さあてあやふ
しりあててあやふ
わらふ人なうさ
助さあて
わいさあてあやふ
あは乃は海をい
も我は海をい
さあてあやふ
しりあててあやふ

源信明

あは乃は海をい
つひもさあてて日
をせしむわらふや
さあしむはにやあ
わらふ人なうさ
助さあて
わいさあてあやふ
あは乃は海をい
も我は海をい
さあてあやふ
しりあててあやふ

あは乃は海をい
つひもさあてて日
をせしむわらふや
さあしむはにやあ
わらふ人なうさ
助さあて
わいさあてあやふ
あは乃は海をい
も我は海をい
さあてあやふ
しりあててあやふ

あは乃は海をい
つひもさあてて日
をせしむわらふや
さあしむはにやあ
わらふ人なうさ
助さあて
わいさあてあやふ
あは乃は海をい
も我は海をい
さあてあやふ
しりあててあやふ

夢見るも何れも夢を執すれハ可なり人々運命を
 爲すも何れも爲すべし

女あすちる

女乃あえす侍り々々

ねめい女のはふ
 へえさしちよせ

去々乃々々々々々々々

志

ねいりものをすまふ乃松

想乃物之寢也

ちよはつて

水之

おろそかにせず

世にまじりて

ありきいつうあられちわん

物と文の

すゝめをいふは心を恒々の松風波をいふの如しんよあり

あつねあつねいふはあつね

わすれぬわすれぬの心はあれりぞとていふ人の心

巽九
士疏

後撰和歌集卷第十

卷二

乃系之於法也

一

蘇東坡題

金冬草子

人をよく知れりあるを

或於云人正

うしりこむをいりあひる

丁卯年九月

午乃之辰

ひちのふり

ひよりのみち^{みち}いづこ

我子

おあゝうま五人へん

五

きんぎょ

我々同志と云

葉をわたりあふり
積りこみけねと
いふに國をねて
花はあふりこみ
わけても我の下
よりハ咲きこみ
女を席に所て
あひき乃山下
席并こみ甚く
らねるもさ
るのこみと

すゝやうわうりる女はり

源中

大義以當計子
近院大義孫

葉をわたりおよそいねね花は
 走るなりとるなりむすむすや
 人をいふとけしき

金日成

兼覽王

あひき乃山下きくは葛の
ふねきき我とてよや

巽十一

公れ好まぬわい
は奇一本 年月上

吾の心は

附古之陽源也

之枕解字

況ぬれハ井底の如

夢云山人

學之於世也

何武侯の奥列に在る

すゝ豆わちの

世之爲之者歟

忠厚朗臣

かたぬよむいむねるわ身うね

わくろくしんあきあき

芳きふまへにちよ

物と心とのち

敬原補之

一本補仁
參後云上

何れを以て善と云ふや

しちわちつよきふるる

久津のやうな事になる

くさくさ

何事もなかり
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを

かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを

藤原顯忠朝臣
 大宰

かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを

かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを
 かなしき人のこころを

杜杞大官
 仲平公

おもひは華や如し不常なり身乃昇るべし
 西のふもいゝもわ
 けくくくくくくくく
 ありとれにやうくあり
 きのねとふまふとふ
 てもををををををを
 といふけりり名草
 漢紀伊の今直み
 けとるくわくわ
 同中納言廣相子
 うえのいねとふ
 あうえわくわ
 あうくくくくく
 白もくくくく

ありとれにやうくあり
 あとれにやうくあり
 あとれにやうくあり
 あとれにやうくあり
 あとれにやうくあり
 あとれにやうくあり
 あとれにやうくあり
 あとれにやうくあり
 あとれにやうくあり
 あとれにやうくあり

あもやふもやふ
 あもやふもやふ
 あもやふもやふ
 あもやふもやふ
 あもやふもやふ
 あもやふもやふ
 あもやふもやふ
 あもやふもやふ
 あもやふもやふ
 あもやふもやふ

あもやふもやふ
 あもやふもやふ
 あもやふもやふ
 あもやふもやふ
 あもやふもやふ
 あもやふもやふ
 あもやふもやふ
 あもやふもやふ
 あもやふもやふ
 あもやふもやふ

贈中納言廣相子
 仲中納言

まわりをくねえつら
天衣内裡と運出せし
て帝より安きこと
る一経をうとてあ
くすまにちまう物を
久におき信しきまに
あひ信てにこくを
死つらににみ死さ
らうらにきまうら
こそあえのあうら
學をまにこくこと
らうらにこくこと
て墓とてににに
うらまうらにに
死つらにににに

まわりをくねえはうらにけ
まに
中將天衣 赤後保衛女
くすまにちまうら物をまうて
うらにまうらにににに
あま
延喜寺 割衣
うらまうらにににに
まににににににに
死つらにににに
あまにににににに
わらわらににににに

いふにまににににに
まににににににに
あまにににににに
まににににににに
うらまににににに
わらにににににに
まににににににに
あまにににににに
まににににににに
うらまににににに
わらにににににに
まににににににに
あまにににににに
まににににににに
うらまににににに
わらにににににに

わらにににににに
あまにににににに
まににににににに
うらまににににに
わらにににににに
あまにににににに
まににににににに
うらまににににに
わらにににににに
あまにににににに
まににににににに
うらまににににに
わらにににににに
あまにににににに
まににににににに
うらまににににに
わらにににににに

きりぎりすのうたは
あつと乃よの字
わくわくも昔今に
人なれぬさびやうと
昔の頃の近きねも
けつりのもていこ
しきつりしねさび
のきりぎりすのうた
ていつしにあらうやと
む乃よのうたは
まの緒にけつりも
乃ねねしきりぎりす
さきりぎりすのうた
とてい今とけつり
我のうたはさきり

きりぎりすのうたは
わくわくも昔今に
人なれぬさびやうと
昔の頃の近きねも
けつりのもていこ
しきつりしねさび
のきりぎりすのうた
ていつしにあらうやと
む乃よのうたは
まの緒にけつりも
乃ねねしきりぎりす
さきりぎりすのうた
とてい今とけつり
我のうたはさきり

きりぎりすのうたは
あつと乃よの字
わくわくも昔今に
人なれぬさびやうと
昔の頃の近きねも
けつりのもていこ
しきつりしねさび
のきりぎりすのうた
ていつしにあらうやと
む乃よのうたは
まの緒にけつりも
乃ねねしきりぎりす
さきりぎりすのうた
とてい今とけつり
我のうたはさきり

きりぎりすのうたは
わくわくも昔今に
人なれぬさびやうと
昔の頃の近きねも
けつりのもていこ
しきつりしねさび
のきりぎりすのうた
ていつしにあらうやと
む乃よのうたは
まの緒にけつりも
乃ねねしきりぎりす
さきりぎりすのうた
とてい今とけつり
我のうたはさきり

[illegible]

人乃らるをいあにきり
 四十六年三月
 有明乃千この毎代更永里に結る
 まはつりたる。延秀卿製
 ようものまのいさかき位のは乃
 はさくさくさくわなれ
 いさくさく 原等朝臣
 かげろふはるしむやをあらわ
 ゆきもきぬみりまてん
 あやふちありえあやまち
 きる人けり

日松河に放ちとるに
百葉の羽をとりて

わろくろくをたのむる
かたきとくじんをたのむ
海をくぐるをたのむ
病をくぐるをたのむ
あつとくをたのむ
はつとくをたのむ

あなを人を粧むとて
ゆすを粧むとて
あなを粧むとて
すれを粧むとて
ゆすを粧むとて
あなを粧むとて
すれを粧むとて
ゆすを粧むとて

桑海集督
菅原兼房朝臣

Handwritten signature: *John C. ...*

女乃こはる

サト
精實利朋
大令人所
春利精實

法華經の巻之四

あねをいふる

五
年

あはれなるものなり
かたじけなくもなり

卷十二

人をいぢつてはうゝ

平定文

あまをいづもふらんちやう
神もふすけぬま身ありなり

おへ
おへいおへ

ちやうと神も今さうなれぬ
さういふこともぬれぬ

女乃もよもよもちりけりよ
まかーしゆなれそふい
たり
費ふ

わすれてゐる暇さ
人よ与つれてゐと
恥辱の人の奇なり
一羽東師林と
山懐くらげさこの夜
もやと主ぬけく
おもんこのめ人
い舟大和物語の推中
納言致忠の影めふ
るやとまゝとてと
よるくらゐとて又同
おもん内わちの
今も致忠のやとて
い常はゆひのよとて
い奇とまゝとてと

いふこと
りとてさふあけられさうとや
めをとりつるちとて
人乃はつりたれい
おもんこのめ人のあつてさく
いふこととてつちとて
兵衛定宝 伊予 茂和番子延喜三
さうさふ朝臣のさやとて
よけの船屋とてちのさやとて
あつてつちとて奇とてと

おもんとてつちとて
おもんこのめ人のあつてさく
いふこととてつちとて
兵衛定宝 伊予 茂和番子延喜三
さうさふ朝臣のさやとて
よけの船屋とてちのさやとて
あつてつちとて奇とてと

今いふこととてつちとて
源清経朝臣
さうさふ朝臣のさやとて
よけの船屋とてちのさやとて
あつてつちとて奇とてと

久しうあそびたりき女は
 くらき 保さねあき
 ちいさきあひえねるさくら
 かふえりわたりあきん
 歌工と 菰原ハルノ活言クツコト
 よればなり福をうまねいささの
 あきあきあきあきあき
 大伴黒天智天皇五代大伴皇子黒孫
 都堵牟磨子
 ちちとちちあきあきあき

天智天皇五代大倭皇子留孫
大倭皇子 都堵牟磨子

巽十
十五

源うゝ 浮肥前守精子
ふーおねえさん、いっしょに、
あーい、おねえさん、いっしょに、
年々、いっしょに、いっしょに、
源すけ 俊 町將便宣音
久きも、いっしょに、いっしょに、
さー、いっしょに、いっしょに、
題名 菅原清正
いっしょに、いっしょに、いっしょに、
いっしょに、いっしょに、いっしょに、

源俊孔町將便宣旨
元大少唱子

うよおをがらうくあふるうもと何り
 歌者ひと 大江ふす 江置上中太極伊太極
 おひやうさうしきよあかりせし 香後音人子
 ひとわたりちひまといふれり
 あひらけいける女乃ともは 特壯中へ
 まわりさうろうきさうてわり
 りるますねるかりさいねのゆき
 う え良のこゝ
いふところのすけ
 あふるふさを山すわりなり
 かへいりいふあふおそのめう

歌止くと あつうのこ
 うのふぢふうふは乃ねれ
 うなくとひまはつんとおり
 五ひくとあひわるあくる人
 荻原忠國 陸奥守連並
 昌泰二年十月十四日 於仁和寺出家 世法名
 寛平乃ふと 乃く 乃く 乃く
 金剛覺 下乃比法帳乃めりよのそん
 乃く乃く乃く乃く乃く乃く

事なりき物事を
 けし物し思ふ乃其
 名もさうされいま
 にさうといふの事
 けし物し思ふ乃其
 事なりき物事を
 ういふ事ありき
 けし物し思ふ乃其
 事なりき物事を
 ういふ事ありき
 けし物し思ふ乃其
 事なりき物事を
 ういふ事ありき

ことさういふ物
 する人なりけれ
 たりありき物
 けし物し思ふ乃其
 事なりき物事を
 ういふ事ありき
 けし物し思ふ乃其
 事なりき物事を
 ういふ事ありき

異十六夜

ありき物事を
 けし物し思ふ乃其
 名もさうされいま
 にさうといふの事
 けし物し思ふ乃其
 事なりき物事を
 ういふ事ありき
 けし物し思ふ乃其
 事なりき物事を
 ういふ事ありき

後撰和歌集卷第十一
 五并三
 ありき物事を
 けし物し思ふ乃其
 名もさうされいま
 にさうといふの事
 けし物し思ふ乃其
 事なりき物事を
 ういふ事ありき

源さなむさしひのむすし
志ぬーとにかりた
中勢
さなむさしひのむすし
志ぬーとにかりた
源信明
さなむさしひのむすし
志ぬーとにかりた
乃

中務

源信明

卷十一

はなとく侍たれとあはれ
ついで侍る 幸院侍
あはれ侍るさわとも人をたて
あはれ侍るをはり
大納言國經朝臣の家より侍る女
よ平定文といふ
てりまやうに侍る侍る侍る女
ふえり 贈太政大臣より侍る
てりまやうに侍る侍る侍る女
とすりてあはれ侍る侍る侍る女

本院 松林玄中御門お
階河東一町左大后時
平家

びりせーちちおねの
弟言いーちちおね
事く披け事く披け
一束のかしおね
おねおねおね
おねおねおね
おねおねおね
おねおねおね

子乃いつともある。本院乃あ
のいふおねおねおね
いふおねおねおね
あふおねおね

平定文

びりせーちちおねの
いふおねおねおね
あふおねおね
あふおねおね
あふおねおね
あふおねおね
あふおねおね
あふおねおね

びりせーちちおね
おねおねおね
おねおねおね
おねおねおね
おねおねおね
おねおねおね
おねおねおね
おねおねおね

おねおねおね
おねおねおね
おねおねおね
おねおねおね
おねおねおね
おねおねおね
おねおねおね
おねおねおね

云日本紀應神天皇
七年春二月吳王

二端也神中抄二端シムヲトス

ナエヒメ ヲトヒメ クレハトリ子
女兄達才媛具六織ハ宅
織ヨリ四ナ婦ヲ女ヲ略註

それいふやあやななく
僻業物云くれいとわと
ハ綾のぬきあやな五
くいあやなよき
りうーハをさるも
ゆす成るものゝ二
ひうと多々綾より
しり 二村ハ三河
かまへんをあら
我山猿立を惜し
け山乃國とありん
こねとてありは
あふもなりと

法原諸實

[illegible]

かしらうに心をあつていふるに
 せむやゆれせむにあらけぬ
 人なるにあらはうに

し
のイ
あふあふ
女

夢もなつてくれとおかつた
ねねうううわううう

わつふおとこ
あつふおとこ
あつふおとこ

わづら乃つゝい春日
あつ二月あ申見
未乃日使いまそと

しきしきねあめ
うきうきねあめ
アアアアアアの大
将軍が将軍との美
名と八千石のあめ
それの春日乃使
よきしきねあめ
よきしきねあめ
めり又と美あめ

か將實忠りのいほるをさわて
こ女よはせむくされよりかすの
はづひうといふくちわくれ

王乃女

うきうきねえもねえーわあ
ふふふふふふふふふふ

あさふりたすふあふりさう
しよりなるとりあひくおわり
くさふ
よふ人きふと

まゝに打て

又ル
 にうてゐる清と
 ちやうどおんなじ
 物を居ようて
 或は云我らも
 居ぬうちをけ
 に見しよと

晋王質山。今仙人
 乃墓と云ふ中は谷の
 柄杓なり。おちて死に
 いせ世の端なきもの
 彼男乃久しく内家
 にありを王質り山
 と云ふ唯へそり
 すりといせめのおま

尺三寸五分

内々々々々々々々々々々々

男の子

Handwritten signature: *John C. Smith*

人乃法身之世也

女 子 學 校 校 長 官

とろろはつとく

伊尹謙德公也天德四年八月
壬辰中

將

すゝもいせお乃あれすゝもい
あれすゝもいせお乃あれすゝもい

二六

いそね人ふととらんあつきの

乃うぬまや
二二
乃うぬまや

仁和二年四月十二日致仕病之
在原初平別居

あつたまきしうりばいさ露乃
けいおきわんうちうぞね

上人志

三のやまありわたり袂をう
 病やわけと人^{のう}よりひる

平中興 ナカキ 左馬権助元公
大英母 季也男

きりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす
てんきりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす

きりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす
きりぎりすしきりぎりす

小余綾磯相模小磯
と云ふ人よこい人
よこい人よこい人
よこい人よこい人
よこい人よこい人
よこい人よこい人
よこい人よこい人
よこい人よこい人
よこい人よこい人
よこい人よこい人

おやあゝ女よあひくかひく
男よあひくかひく
男よあひくかひく
男よあひくかひく
男よあひくかひく
男よあひくかひく
男よあひくかひく
男よあひくかひく
男よあひくかひく
男よあひくかひく

かしこきがけりて
 あつていふに
 結ぶとんと
 ことおのすまに
 こりふねを
 ちのひも
 とき枕を
 けいさくも
 かくれ
 なる内
 けんの
 けりき
 物に増
 後子に

教忠朝臣
 あつていふに
 ちのひも
 けいさくも
 かくれ
 なる内
 けんの
 けりき
 物に増
 後子に

閑院太皇太后

人とする
 なる内
 けんの
 けりき
 物に増
 後子に

かしこきがけりて
 あつていふに
 結ぶとんと
 ことおのすまに
 こりふねを
 ちのひも
 とき枕を
 けいさくも
 かくれ
 なる内
 けんの
 けりき
 物に増
 後子に

小節好古

明^{めい}とすれとあ^あねき^{ねき}なる
と^とい^いん^んと^と上^上る
い^いや^やも^もと^と一^一
わ^わの^のう^うこ^こあ^あき^きれ
海^{かい}乃^の字^じと^とわ^わと^とも^もし
あ^あつ^つも^もし^し海^{かい}乃^のあ^あう^う
と^と海^{かい}乃^の入^いる^るや^やり
君^{きみ}を^をよ^よし^しに^には^はき^きす
一^一に^に海^{かい}乃^の入^いる^るこ^ころ
え^えき^きん^んと^とし
か^かの^の衣^いを^をけ^けて^てあ^あま^まぬ
衣^いの^の衣^いを^を掛^かる^る物^{もの}
な^なれ^れは^は枕^{まくら}を^をな^なり
人^{ひと}乃^のあ^あと^とい^いひ^ひき^き
た^たけ^けて^てた^たひ^ひと^とし

あ^あと^とい^いす^すれ^れと^とあ^あね^ねき^きなる
是^{これ}則^{すなはち}
わ^わの^のう^うこ^こあ^あき^きれ
あ^あつ^つも^もし^し海^{かい}乃^のあ^あう^う
と^と海^{かい}乃^の入^いる^るや^やり
人^{ひと}乃^のあ^あと^とい^いひ^ひき^き
知^しる^るも^も太^た道^{だう}
か^かの^の衣^いを^をけ^けて^てあ^あま^まぬ
人^{ひと}乃^のあ^あと^とい^いひ^ひき^き
ひ^ひと^と乃^のあ^あと^とい^いひ^ひき^き
と^とに^にす^する^る物^{もの}の^のあ^あと^とい^いひ^ひき^き

け^けの^の衣^いを^をけ^けて^てあ^あま^まぬ
す^する^るも^も太^た道^{だう}
彼^か女^{にょ}乃^のあ^あと^とい^いひ^ひき^き
は^はと^とな^なれ^れと^とれ^れ海^{かい}乃^のあ^あ
よ^よし^しに^には^はき^きす
一^一に^に海^{かい}乃^の入^いる^るこ^ころ
え^えき^きん^んと^とし
か^かの^の衣^いを^をけ^けて^てあ^あま^まぬ
衣^いの^の衣^いを^を掛^かる^る物^{もの}
な^なれ^れは^は枕^{まくら}を^をな^なり
人^{ひと}乃^のあ^あと^とい^いひ^ひき^き
た^たけ^けて^てた^たひ^ひと^とし

あ^あと^とい^いす^すれ^れと^とあ^あね^ねき^きなる
是^{これ}則^{すなはち}
わ^わの^のう^うこ^こあ^あき^きれ
あ^あつ^つも^もし^し海^{かい}乃^のあ^あう^う
と^と海^{かい}乃^の入^いる^るや^やり
人^{ひと}乃^のあ^あと^とい^いひ^ひき^き
知^しる^るも^も太^た道^{だう}
か^かの^の衣^いを^をけ^けて^てあ^あま^まぬ
人^{ひと}乃^のあ^あと^とい^いひ^ひき^き
ひ^ひと^と乃^のあ^あと^とい^いひ^ひき^き
と^とに^にす^する^る物^{もの}の^のあ^あと^とい^いひ^ひき^き

あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて

あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて

あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて

あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて
あつていふとてあつて

大正

九条

曉月出照

文正公集卷之六

くまのあし

長谷雄一郎

ちなりおふあさりすも雲もあ
 かりあるとこうおひよりまれ
 歌とて 贈太政大臣
 何ちあきあきお松山波いさん
 いをいさうおひいさう
 うー
 伊勢
 春にあきあきお松山波いさん
 ちなりおふあさりすも雲もあ
 かりあるとこうおひよりまれ
 歌とて 贈太政大臣
 何ちあきあきお松山波いさん
 いをいさうおひいさう
 うー
 伊勢

伊衡親王のむすめ
 よもいふあけさこりつびあわれ
 あやうきなりあるうひもあは
 人乃ふはくちりよなれハ社と
 人をはくちり
 よふいとちと
 人志れぬわつ物おひ乃あやこ
 神よりはげしくうきとくわ
 山あはれあふくちりよなれハ社と
 (は)

山のふもとにうゑる草の
中い山の麓はあつた
うれいひひくく文
あつたせうくわく
はふまふまふわ
くつらふまふふ
うれいひひくく文
あつたせうくわく
はふまふまふわ
くつらふまふふ

ふきとふきするがこころあふ
ありぬへーこころ
お大匠懐徳堂大茶六
お大匠懐徳堂大茶六
年たか天曆五年
山乃ふまふまふわ
あつたせうくわく
はふまふまふわ
くつらふまふふ
うれいひひくく文
あつたせうくわく
はふまふまふわ
くつらふまふふ

異士一五

夢乃こころうゑる
如夢くくくわく
あつたせうくわく
はふまふまふわ
くつらふまふふ
うれいひひくく文
あつたせうくわく
はふまふまふわ
くつらふまふふ

ふきとふきするがこころあふ
ありぬへーこころ
お大匠懐徳堂大茶六
お大匠懐徳堂大茶六
年たか天曆五年
山乃ふまふまふわ
あつたせうくわく
はふまふまふわ
くつらふまふふ
うれいひひくく文
あつたせうくわく
はふまふまふわ
くつらふまふふ

玉は三箇より入江に
紀伊名所の序舞に
下句心明し

歌うと
 玉はさき入にそくね乃
 うきうきこも我はさき
 記内
 一とあふこ

紀内親王

三品

紀内親王作者部類^二桓武
内子^一と紹運録^三紀伊
内親王三品仁和三年
六月六日薨^二八十八^一
は乃金乃名あると云く
僻案抄云すくもく
少とハ満は位^モ年
ハ藤原^モと云く集
ハハ下子^モと云く
より^モと云く

は乃玉のあまをくちましくおみさる
すくもくく火乃玉ふくもれ
人乃玉もふくもわていれさかれ
とすあまをくちましくおみさる
いふ入替もよみひくもれ
あまもくちましくおみさる

巽士

原を人々の向け
是にさうふくさうれ
はわりのあきき地さ

世に於て露はもつはきき

夢路もやとす
 すのふりありて
 一と路もやとす

あふ、何あふとねさねもある物を
ふをら乃露やあふあり いふ

りつては、
あつては、

心さういふ事あるえあゝとあけ
れんはうりふ

洞を穿て歎くは是を
とて何所露とて輕
なるをしかるまじ
るやとて何とて然
るやとて何とて然
るやとて何とて然

乃々乃々
 玉も金もやあまはるね

七

近江の湖と海松
 三三三

あふくはくわんもあまのこ
あふく

小町
 兼寛王
 小町

子人考

わかれあんとちよふ心乃やととうそ
はれちまひととうそや
よいな女にあひくわすすのちよ
ありとちりこもをいそさせてあ
ふふふふふ
敬原志げと
滋幹が将

いもゆゑに何うもなれ
院乃院乃まはのちねといふ女
院乃やすむる何きはつて
太大臣 師備公
あひし我よりさもなれ
何やあきなりやすくき
かぬちり朝臣めくるなまりて
とこそとあひたりん
元平乃この母三品源氏平陽公長男二
乃大長
一乃之母
あゝ玉乃ともなる松やまの
波乃ともいふあるん

1
 १७५७

右大臣 師備公

だひうゝ我う入るももれ
 何やあきまやすゝゝき
 かぬち乃朝臣めくゝまかりて
 ぞゝゝゝゝいゆれん
 元平乃ゝこの母
 三品源平陽成院中二
 元平乃ゝこの母
 源光母
 あゝ玉乃ぞもゝねる松やまの
 波乃ゝゝゝゝゝん

元平乃この母 三品階子平陽侯中二 乃大后 弘光母

あゝ玉乃きもくねる松やまの
波乃きもくねる人

ちと乃ちよちりすはなれりて男の
 もふきけるよふ人きくこと
 わりてあはれりてあはれりて
 野中乃ちきくさふさふさるる
 女乃ちももりてはうりて
 源中十カクハ正
 何あちをきくちりてもえりて
 せき乃ちこちりてわひりてちり
 かー
 ちりて
 ちりてちりてちりてちりて

芳名もろはうへん

源中匠

何事かを志すべし
 世に乃こあらざるわひ
 か
 志すべし
 何事かを志すべし

志江津村

せきれあふといふなり
 女もあふあふわい
 ちちあとのすいねえ
 ようじんき
 はあきをいふのよれわう
 といふきこいふあかり
 あつりりこの家よあま
 人なききこいふ
 ちちあふあふい
 いふきこいふわい
 いふきこいふわい

中納言長谷雄 彈正忠利範
 紀と世乃期長 子

いふもいふもいふも
いふもいふもいふも
いふも

さやまゝなりなり
心乃地名ありや
平花八や宮もえ
えとと思ひなりぬ
うし心乃なりぬ
知名^シ城^シと淮南^シ云
决塘^シと城^シ許慎^シ云
械所^シと通波^シ實池
乃い^シと^シと^シと^シ
う^シと^シと^シと^シ
い^シと^シと^シと^シ

いふいふいふいふ
いふいふいふいふ

よふ人きく

さやまゝなりなり
ころの地乃いふいふ
かゝる人乃家よ人を
まのわくかゝるくは
おせんとちまわく
おゝゝゝゝゝゝゝゝ
おゝゝゝゝゝゝゝゝ

いふいふいふいふ

いふいふいふいふ

いふいふいふいふ

いふいふいふいふ

いふいふいふいふ

源重光朝臣
大納言
代明親王

いふいふいふいふ

いふいふいふいふ

